

2025年3月27日

各位

株式会社富山第一銀行

株式会社Eアルとの
「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結

株式会社富山第一銀行（頭取 野村 充）は、株式会社Eアル（代表取締役 上田 一人）を評価対象とした「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

本サービスを通じて、取引先の企業活動における環境・社会・経済の3つの側面に対して、インパクトを包括的に特定・分析し、ポジティブ・インパクトが期待できる活動と、ネガティブ・インパクトを緩和する活動を支援いたします。

今後も、お客さまに「寄り添う」銀行として、持続可能な社会の実現に向けた企業活動を通じたSDGsの達成に寄与することで、さらなる信認につなげます。

記

1. 商品概要

本商品は、企業活動が経済・環境・社会に与えるポジティブ並びにネガティブな影響をポジティブ・インパクト金融原則に基づき特定し、ポジティブインパクト（プラスの影響）を拡大、ネガティブ・インパクト（マイナスの影響）を緩和することでSDGs達成を目指すファイナンスの取組です。当行は、インパクトに対する企業活動の影響・取組を包括的に分析・評価を行います。これらのインパクトに対するKPI（重要業績評価指標）についてお客さまとともに設定し、達成状況や取組状況について、定期的にモニタリングし、達成に向けて支援を行ってまいります。客観性を保つため当行が実施した評価について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

2. 融資概要

契約締結日	2025年2月21日
借入人	株式会社Eアル
融資金額	273百万円
資金使途	設備資金
モニタリング期間	20年

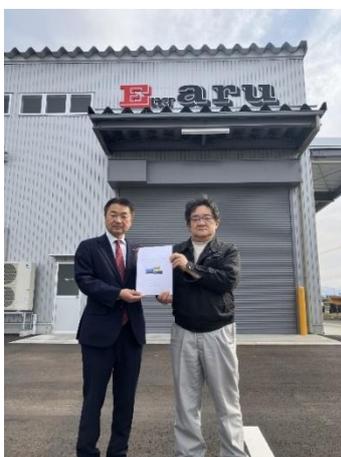
※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記URLをご参照ください。
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

3. 評価企業概要 株式会社Eアル

代表者	代表取締役 上田 一人
本社所在地	富山県富山市婦中町浜子 1313
事業内容	自動機、省力化設備の設計・製作
設立年月	2009年4月

4. SDGs 達成に向けた取組事例（詳細は評価書をご参照ください）

取組内容	取引先の生産性向上や省エネ化に貢献する産業用機械生産の増加
インパクトの種類	経済面におけるポジティブ・インパクトの拡大 環境面におけるポジティブ・インパクトの拡大
インパクト・カテゴリ	「包括的で健全な経済」 「資源効率・安全性」
関連SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・製造現場における人手不足への対応や生産性向上に寄与する自動機・省力化設備の供給拡大 ・省エネ性能を高めた設備の開発・供給強化
毎年モニタリングする目標とKPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年3月期に売上高400百万円達成（2024年3月期実績：312百万円） ※以降のKPIは改めて設定する



株式会社富山第一銀行

株式会社Eアル

婦中支店長 安吉 清臣

代表取締役 上田 一人氏

【本件に関する問い合わせ先】

法人事業部：木村

TEL 076-461-3871

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：株式会社 E アル



2025年2月21日

株式会社 富山第一銀行

目次

1. はじめに.	2
2. 会社概要.	3
(1) 企業概要	
(2) 経営理念	
(3) 沿革	
(4) 組織図	
(5) バリューチェーン	
(6) 業務フロー	
3. 事業内容.	5
(1) 当社の強み	
(2) 電動アクチュエーターの活用について	
(3) 工場の消費電力について	
(4) 産業用機械製造業界の動向	
(5) 装置納入実績	
(6) 教育制度への取り組み	
(7) ダイバーシティへの取り組み	
(8) 本社工場における太陽光発電パネルの設置	
4. インパクトの特定.	11
(1) インパクトレーダーによるマッピング	
(2) インパクトカテゴリーに対する SDG s ゴール	
(3) 日本におけるインパクトニーズの確認	
(4) 富山県の政策・戦略の確認～とやま未来創生戦略の確認～	
(5) インパクトの特定	
(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認	
5. KPI の設定.	16
6. 管理体制とモニタリング	19
(1) インパクトの管理体制	
(2) モニタリング方法	

1. はじめに

富山第一銀行は、株式会社 E アルに対してポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施するにあたって、同社の企業活動が、環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響及びネガティブな影響）を分析・評価した。

分析・評価にあたっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」および ESG 金融ハイレベル・パネル設置要領第 2 項（4）に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則った上で、株式会社 E アルの企業活動における包括的なインパクトを分析した。

富山第一銀行は、本評価書で特定されたポジティブ・インパクトの拡大とネガティブ・インパクトの抑制に向けた取り組みを支援するため、株式会社 E アルに対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行する。

資金調達者の名称	株式会社 E アル
所在地	富山県富山市婦中町浜子 1313
事業内容	自動機、省力化設備の設計・製作
調達形態	証書貸付
金額	273 百万円
資金使途	設備資金
契約期間（モニタリング期間）	2025 年 2 月 21 日から 20 年間

2. 会社概要

(1) 企業概要

社名	株式会社 Eアル
代表者	代表取締役 上田 一人
本社	富山県富山市婦中町浜子 1313
設立年月	2009年4月1日
事業内容	自動機、省力化設備の設計・製作
資本金	26.5百万円
売上高	312百万円（令和6年3月期）
従業員	8名（令和7年3月時点）
有資格者状況	第二種電気工事士 3名 フォークリフト免許 4名 二級建築士 1名 ISO 内部監査員 1名

(2) 経営理念

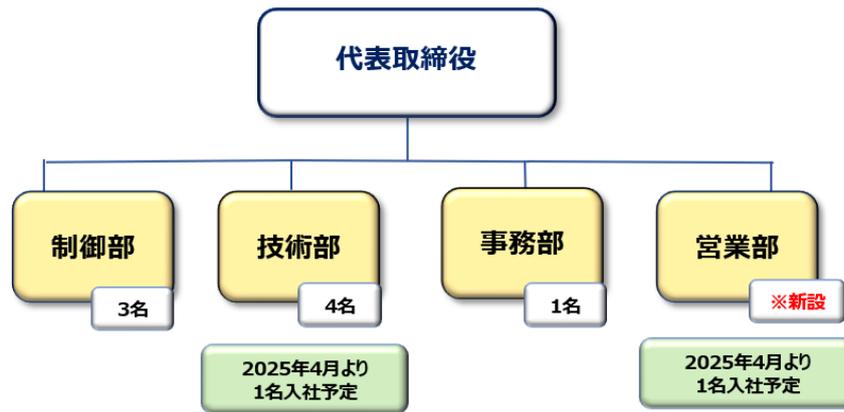
お客様からの相談に対して、目的や方向性を十分に理解し、

『もう一つの提案を加える』ことを常に考えるエンジニアであり続ける。

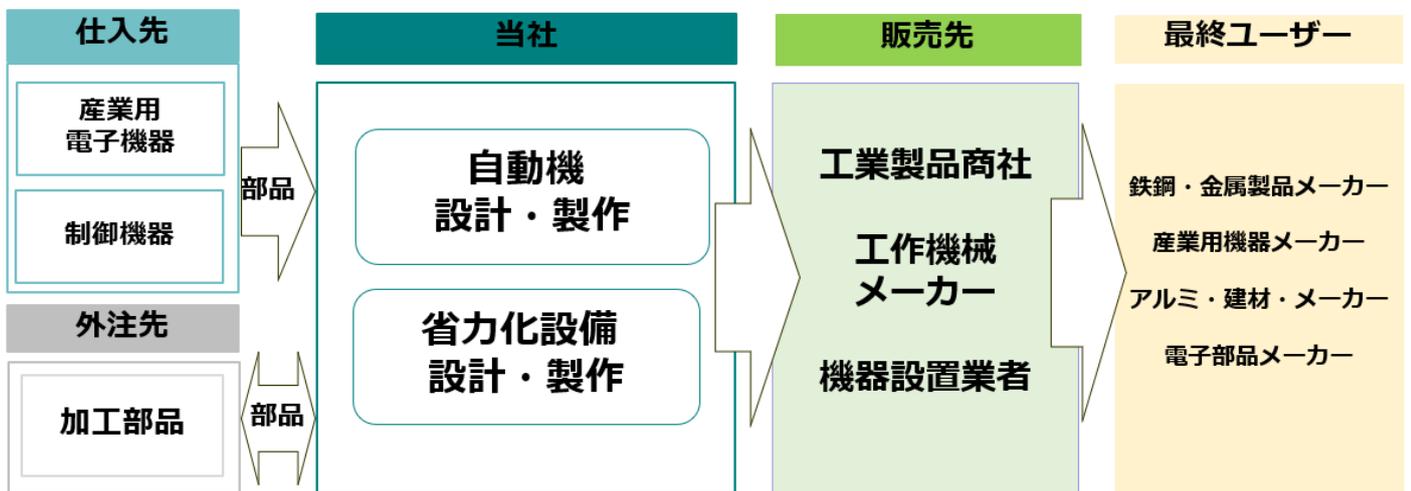
(3) 沿革

2009年4月	会社設立
2009年9月	富山市婦中町萩島にて事業開始
2017年10月	富山市上栄に上栄工場設立
2019年9月	富山市婦中町添島に移転（萩島事業所と上栄工場を統合）
2025年2月	富山市婦中町浜子に新社屋を建設・移転

(4) 組織図



(5) バリューチェーン



(6) 業務フロー



3. 事業内容

- 当社は自動機の設計・製作、省力化設備の設計・製作、各種機械の組立・加工、ロボットシステムの導入等産業用機械の製作を行っている。
- 各種機械の設計から、製作・加工・管理までの一元管理が可能。
- 人手不足への対応が叫ばれる近年において、品質、効率、安全性の向上の観点から省力化・自動化設備のニーズは高まっており、取引先からの信頼も厚い。また、受注先の業種が多岐にわたっており、鉄鋼業や食品製造業など幅広く納品を行っている。

(1) 当社の強み

- ・ 当社の持つ営業力と技術提案力を組み合わせ、販売先の環境・要望に応じた付加価値の高いシステムや機器の提案が可能。他社製品にはないオリジナル機械の設計製作・販売が可能で、顧客に応じたオーダーメイド型の受注が可能。
- ・ 電子制御盤の製作も同時に行うことで、販売後の機械管理が可能。
- ・ 他社が思いつかないような省エネに配慮した製品の開発に挑戦しており、電気をエネルギーとする電動アクチュエーター（モーター回転運動を直線運動に変換する装置）を積極的に活用している。

(2) 電動アクチュエーターの活用について

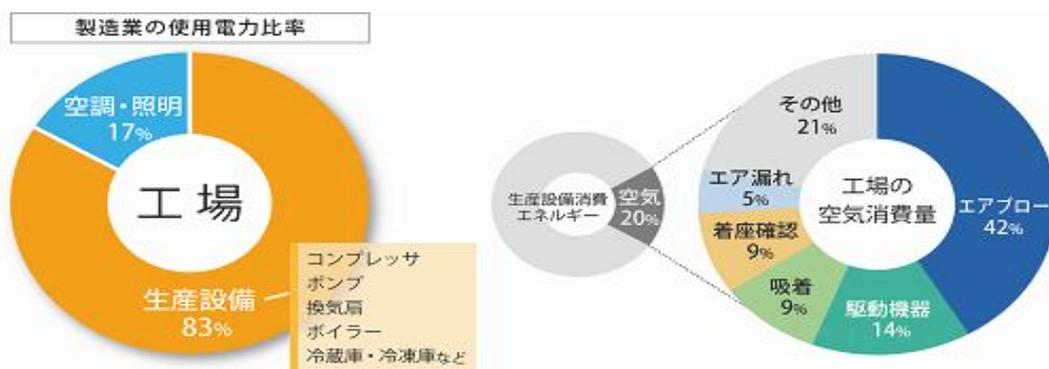
- ・ 当社は取引先の省エネ推進のため、エアコンプレッサーやエアシリンダーでなく、電動アクチュエーターを使った装置の開発を推進している。電動アクチュエーターは産業機械や自動化システムの中心的な役割を果たす要素の一つであるため、近年期待度は高まっている。一般的にエアを使った装置より効率性が高く、同じ動作をさせるために必要なエネルギーが少ない傾向にあり、省エネを実現しやすい。
- ・ 近年、SDGsをはじめとした環境負荷削減への取り組みから、エアレス化を進める生産工場が増え、電動アクチュエーターの需要も増えてきている。需要の増加と同時に、提供する装置の高精度、高剛性、軽量化、省サイズ化などの要求も高まっており、これらを実現するため当社はより一層、装置の開発に力を注いでいる。

<エアを使った装置と電動アクチュエーターの比較>

特徴	エアコンプレッサー	エアシリンダー	電動アクチュエーター
役割	圧縮空気を生成して供給する装置	圧縮空気を利用して直線運動または回転運動を行う装置	電気エネルギーで直線運動または回転運動を行う装置
動作の原理	空気を吸引し圧縮して高圧の空気を蓄える	圧縮空気によってピストンを動作させる	モーターで駆動し、直接または間接的に動きを生成
エネルギー効率	電力消費が大きい	使用中のみエネルギー消費され、エネルギー効率は圧縮空気供給装置の効率に依存	消費電力が比較的低く、精密制御が可能で効率的
用途	エアシリンダーやエアツールへの空気供給、塗装作業、空気清浄など多岐にわたる	機械の一部として、物の押し引きや持ち上げ作業など自動化ラインで使用される	高精度な位置決めや制御が必要な場面で使用され、ロボットや生産設備で幅広く活用
設置箇所	工場全体や空気供給システム	機械装置の一部に組み込まれる	機械装置に取り付けられる
省エネ目線でのポイント	運転時間を短縮によって、消費電力を削減可能	圧縮空気の漏れ防止や動作の短縮でエネルギー浪費を削減可能	必要な動作のみエネルギー消費し、非常に効率的でエネルギー浪費が少ない

(3) 工場の消費電力について

- ・ 製造業の工場現場における使用電力比率は生産設備消費エネルギーの約 20% が「コンプレッサー」による消費と試算されており、工場のエネルギー削減のポイントは「空気消費量削減」と言える。
- ・ そのコンプレッサーによる消費の内訳をみると、「エアブロー」が 42%、「駆動機器」が 14%、「吸着」、「着座確認」がそれぞれ 9%と続く。コンプレッサーによるエネルギーの消費を抑えるためには、生産工程の見直し、エア漏れ・無駄の削減、効率の良い機器の選定がポイントとなる。



出典：資源エネルギー庁エネルギー白書 2022

(4) 産業用機械製造業界の動向

- ・ 当社が属する産業用機械製造業界は、製造業を中心とした需要先の設備投資動向による影響を受けやすい市場環境であり、コロナ禍の設備投資控えの影響を受けていたものの、2021 年以降の業界全体での産業用機械の生産量は回復傾向にある。
- ・ 省力化投資によって生まれる作業時間をより高度な業務や創造的な業務に充てることで高品質、高性能な製品の提供ができるようになり、新たな付加価値の創出が可能。
- ・ 産業用ロボットは主に製造現場の自動化に使用される再プログラム可能な多目的化ロボットが増えてきている。
- ・ 政府としても省力化投資を後押しする動きが加速化している。人手不足解消に効果のある省力化投資やシステム導入するための経費を国が補助することにより、中小企業の省力化投資を促進する「中小企業省力化投資補助金」等といった補助金の発信もあり、業界全体の生産性の向上と運営コストの削減が期待できる。

(5) 装置納入実績

◆組付加工機◆

放電加工機

レーザー加工機

サンドブラスト

ライナーカット機

鍵溝加工機

切断ライン



◆組付機◆

ピン打ち機

内函組立機

端子送入機

圧入機

洗浄機

各種組付機

ポッティング機



◆ロボットシステム◆

各種 RB ハンド機

ローダーアンローダー



◆試験機・検査機◆

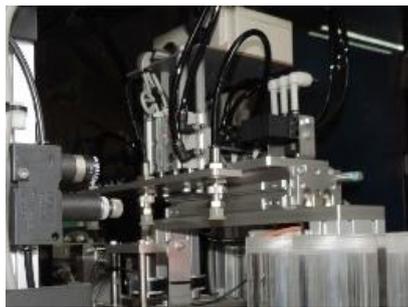
圧縮試験機

測定機

耐久試験機計数機

画像処理検査機

ID 読取機



◆省力化機械◆

スプーン投入機

集積コンベア

選別機

ラベル貼付機

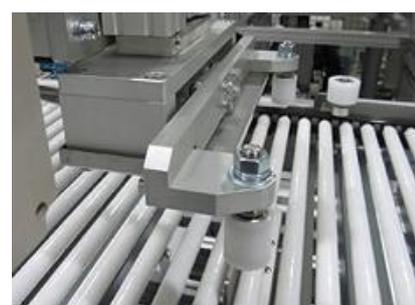
サヤ詰替機搬送コンベア

ケーサー

容器供給装置

増締め機

フィードコンベア



(6) 教育制度への取り組み

◆資格取得支援の取り組み

当社は、キャリアアップできる体制づくりとして、資格取得に必要な技能講習や通信教育講座の受講にかかる、受講費及び交通費について当社が全額補助する制度を設けている。社員のスキルアップ・キャリアアップの支援に積極的に取り組んでいる。従業員自らが取りたい資格があれば、会社から費用を支給している。

◆ロボット・制御関係の講習会への参加

当社は、従業員に対してロボットメーカーでの研修に参加することを推奨している。毎年、制御機器メーカー「ファナック」での講習会への参加を実施。講習費は全額会社補助とし、積極的に受講者を募集している。

(7) ダイバーシティへの取り組み

◆定年制度無し

当社は、本人の意向で働き方を決定できるよう定年制度を設けていない。本人と相談のうえ、適切な対応を検討し、年齢を問わない働き方の実践に努めている。

◆賞与の年3回制

当社は、夏の賞与・冬の賞与の他に、期末賞与を支給している。（過去8年連続で支給実績あり）雇用体系の充実を図るため、正社員・アルバイトを問わず、昇給・賞与支給対象者としている。

◆時間単位の年次有給休暇制度を導入済

当社の年次有給休暇制度は、時間単位で取得することが可能。有給休暇の取得日数の中で最大5日分（40時間）を1時間単位で取得でき、毎年70%以上の有給休暇取得率を維持している。

◆永年勤続休暇（リフレッシュ休暇）を導入済

勤続年数が10年・20年・30年毎に会社から金一封を支給し、付与日数3日（土日を含めて5日）の休暇を付与している。また、休暇中の給与に関しても全て支給している。

◆インターンシップの受け入れ

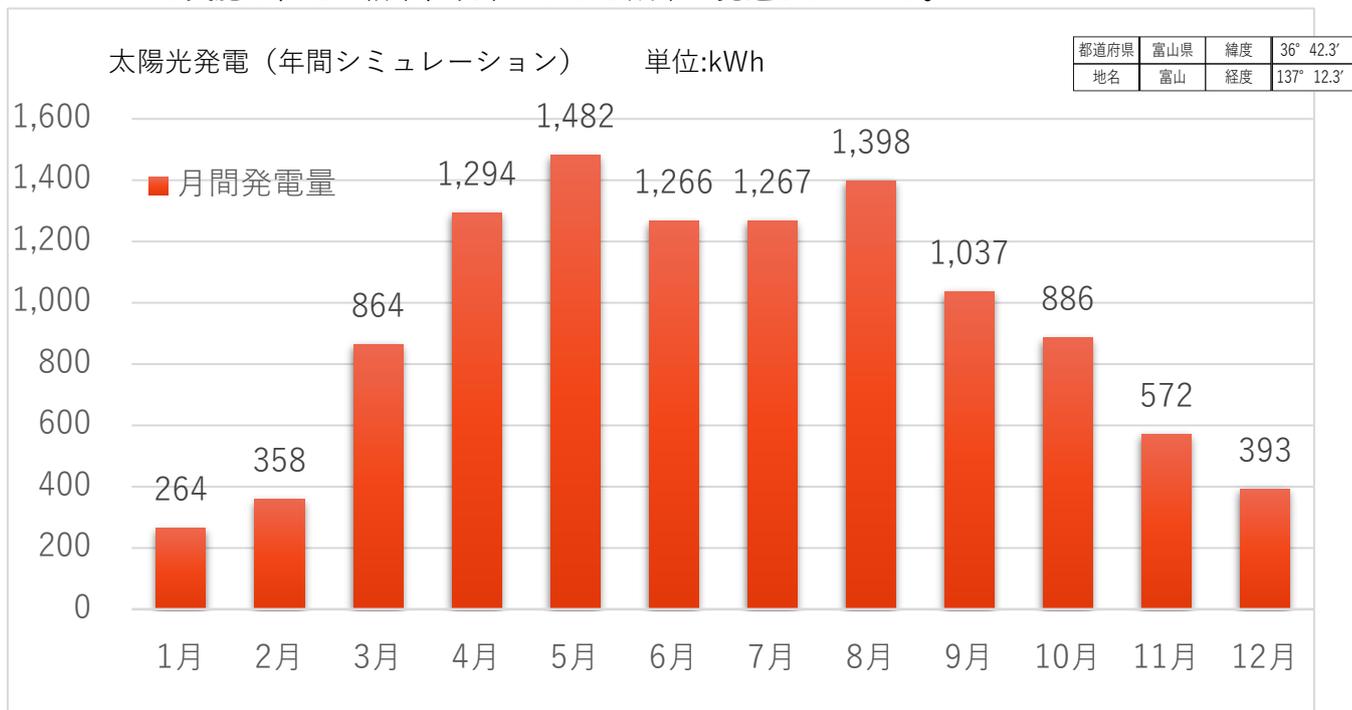
当社は、学生に実務経験の機会を提供し、キャリア教育を支援する取り組みとして、工業系の高校からのインターンシップ学生の受け入れを行っている。（富山高等専門学校より受入実績あり）

◆専門学校での専門講義の実施

当社は、高等専門学校での単位取得できる授業の受け持ちを行っている。代表取締役がインターンシップを受け入れている富山高等専門学校にて特別講師として専門講義を実施しており、これまで、令和5年1回、令和6年1回と2年連続の開催の実績がある。

(8) 本社工場における太陽光発電パネルの設置

当社は、2025年本社工場の移転に伴い、工場の屋根に太陽光発電パネルの設置を行った。再生可能エネルギーの活用により、温室効果ガス排出量削減に努めている。導入に当たって発電シミュレーションを実施し、その結果、以下のような成果が見込まれている。



※シミュレーションの年間発電量は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の年間月別日射量データベース（MONSOLA-11）を用いて算出

年間発電量：積雪等の気象条件や周囲環境により発電量は変動するが、当社の太陽光発電システムはシミュレーション上、年間で 11,080 kWh の電力を生成することが予測されている。

自家消費率：システム導入後、当社の年間推定消費電力量である 29,986 kWh のうち、約 35% を自家発電で賄うことが可能となり、エネルギーコストの削減も期待される。

再生可能エネルギーの活用：持続可能な社会の実現に向けて再生可能エネルギーの活用を促進。当社の取り組みは、環境負荷の軽減および CO₂排出削減に寄与するものである。

【設備情報】

モジュール（枚）		
型式	NER120M375D-MCH	30
総容量	11.25kW	
パワーコン（個）		
型式	SPSM-444B-NX	1
	SPSM-554B-NX	1

【物件情報】

屋根材	ハゼ折板
勾配（寸）	0.3

4. インパクトの特定

(1) インパクトレーダーによるマッピング

富山第一銀行は、株式会社 E アルにおける事業内容やバリューチェーン分析等の結果をもとに、主要・関連業務を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングを実施し、ポジティブ・インパクト及びネガティブ・インパクトの分布を調査した。

分布図中の「◆◆」は重要な影響があるカテゴリー、「◆」は影響があるカテゴリーを示しており、当社の事業活動における「◆◆」「◆」の影響を検討する。

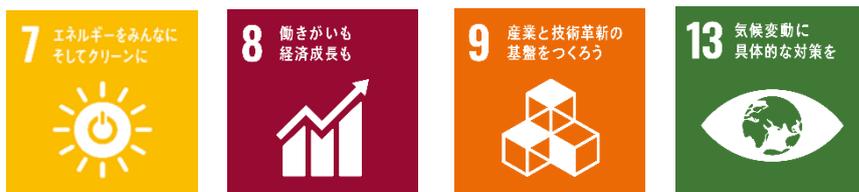
国際産業標準分類	川上の事業		当社の事業				川下の事業						
	【2610】		【2819】		【2829】		【2220】		【2822】		【3320】		
	電子部品及び基板製造業		その他の一般機械製造業		その他の特殊産業用機械製造業		プラスチック製品製造業		金属成形機械及び工作機械製造業		産業用機械器具設置業		
インパクトカテゴリー	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	
社会	水（入手）											◆	
	食糧												
	住居	◆											
	健康・衛生	◆						◆					
	教育												
	雇用	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	エネルギー												
	移動手段												
	情報	◆											
	文化・伝統												
	人格と人の安全保障												
	正義・公正												
	強固な制度・平和・安定												
環境	水（質）		◆		◆		◆	◆◆		◆		◆	
	大気		◆		◆		◆	◆		◆		◆	
	土壌		◆		◆		◆	◆◆		◆		◆	
	生物多様性と生態系サービス											◆	
	資源効率・安全性		◆		◆		◆	◆		◆			
	気候		◆		◆		◆	◆		◆		◆	
経済	廃棄物		◆		◆		◆	◆◆		◆			◆
	包括的で健全な経済	◆		◆		◆	◆		◆		◆		
	経済収束												

- ・ 当社の事業を国際産業標準分類に則り、「その他の一般機械製造業（2819）」「その他の特殊産業用機械製造業（2829）」とした。
- ・ また、川上の事業に「電子部品及び基板製造業（2610）」、川下の事業に、「プラスチック製品製造業（2220）」「金属成形機械及び工作機械製造業（2822）」「産業用機械器具設置業（3320）」を適用した。
- ・ インパクトマッピングにおいて特に影響が大きいと考えられるインパクトカテゴリーは、ネガティブでは「水（質）」「土壌」「廃棄物」が挙げられた。
- ・ 一定の影響があると考えられるインパクトカテゴリーは、ポジティブでは、「水（入手）」「住居」「健康・衛生」「雇用」「情報」「水（質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「気候」「包括的で健全な経済」、ネガティブでは、「健康・衛生」「雇用」「大気」「資源効率・安全性」「気候」が挙げられた。このうち当社事業と関連性の高いカテゴリーを中心に検討する。

当社事業におけるインパクトの確認

- ・ 当社の主力事業である自動機・省力化設備の製造は、取引先である工作機器メーカーや商社の要請を受けて年々生産量が伸びており、今後の更なる増産要請も受けている。自動機・省力化設備は社会を支える機械製造にあたって必要不可欠な製品であり、当社はその供給を通じて社会や経済に貢献している。
- ・ また、需要の増加とあわせて自動機・省力化設備への高精度、高剛性、軽量化、省サイズ化などが要求される。当社では、エアを動力としない伝動装置へ置き換えることで高い省エネ性を実現した高付加価値の自動機・省力化設備を提供しており、取引先のエネルギー消費量削減に寄与する。
- ・ 今後も新たに建設した工場で増産体制を構築し、省エネ性能を備えた自動機・省力化設備の供給を通じてサプライチェーンを支え、経済成長に寄与する意味で「包括的で健全な経済」のポジティブ・インパクトの拡大に貢献する。
- ・ 製造業における大きな課題として、工場稼働に伴う CO₂の排出や産業廃棄物などが環境への影響として挙げられる。当社は、電気使用量の削減、産業廃棄物の排出量削減の目標を掲げ、その達成に向けて取り組んでいる。特に、本社移転に伴い太陽光発電を導入。再生可能エネルギーの活用による自社 CO₂排出量の削減、使用資材・廃棄物の発生の抑制、工場の消費電力量の抑制に努めている。
- ・ 以上の取り組みにより、環境面においては「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」におけるネガティブ・インパクトの抑制に努めている。
- ・ 「雇用」においては、雇用創出による生計へのポジティブ・インパクトがある一方で、労働者の健康面と安全性のリスクがネガティブ・インパクトとなる懸念がある。
- ・ 当社ではワークライフバランスの調和に向けた働き方改革に積極的に取り組んでいる。具体的な取り組みとしては、時間単位での有給消化を可能とし、介護や子育てをしている従業員の仕事と家庭の両立を支援しており、有給休暇取得率の向上に努めている。また、足元では今春に2人の従業員（男女1人ずつ）の入社を予定しており、継続的に働ける職場環境の整備を行うため、従業員のスキルアップに向けた資格取得支援、休業制度の整備、年次有給休暇の取得促進などにより、「雇用」のカテゴリーにおけるポジティブ・インパクトの拡大、及びネガティブ・インパクトの抑制に努めている。

(2) インパクトカテゴリーに対する SDGs ゴール



(3) 日本におけるインパクトニーズの確認

持続可能な開発ソリューションネットワーク（SDSN）に掲載されている日本のダッシュボードによると、大きな課題が残る項目が「赤色」、重要な課題が残る項目が「橙色」、課題が残る項目が「黄色」、目標達成が「緑色」となる。

今回特定したインパクトと対応する SDGs のゴール 4 項目のうち、1 項目が大きな課題が残る、2 項目が重要な課題が残る項目である。日本に課題が残る項目が 3 項目該当していることから、日本における当社グループのインパクトは重要度が高いと判断する。



出典：SDGs ダッシュボード

(4) 富山県の政策・戦略の確認 ～とやま未来創生戦略の確認～

富山県は、約 4,248 km²の広さを有し、医薬品や機械、電子部品等を中心としたものづくり産業が盛んな日本海側有数の中核都市として発展してきた。水深 1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から 3,000m級の北アルプス立山連峰まで、自然豊かで多様な地勢を誇り、広大な森林面積や全国有数の水力資源、地熱資源に恵まれ再生可能エネルギーのポテンシャル（潜在可能性）が高いことも特徴である。

人口減少、少子・超高齢社会が進行する中、このような地勢を背景として、富山県では本県の自然、文化産業など各地域の特色、強みを活かした持続可能で活力ある未来を創造するため、平成 27 年 10 月から「とやま未来創生戦略」を、令和 2 年度から「第 2 期とやま未来創生戦略」を策定した。

第 2 期とやま未来創生戦略は、基本目標 1. 結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備、基本目標 2. 産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進、基本目標 3. 若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上、基本目標 4. 活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくりを掲げている。

基本目標 3 の若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上における②高齢者が能力を發揮して活躍できる社会の実現では、元気な高齢者が活躍でき、誰もがいきいきと働き活躍できる場の創出を掲げており、当社の定年制度を無くして本人の自由な働き方を尊重し就業機会を確保する考え方は、まさに富山県が目指す地域の環境づくりに合致しており、富山県が目指す「高齢者等が能力を發揮して活躍できる社会の実現」に大きく貢献している。

また、当社のものでづくり分野での人材育成のため、学生のインターンシップ受入や専門講義の実施、従業員の資格等スキルアップ支援は富山県が基本目標 3 の中、多様な人材の確保・育成、労働生産性の向上に寄与する取り組みと言える。

基本目標 1	基本目標 2	基本目標 3	基本目標 4
<p>結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備</p> <p>① 結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 結婚・妊娠・出産支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○結婚を希望する男女の出会いの場の提供 やライフプラン教育の充実 ○若者・女性を中心とした移住・UJターン促進 ○妊娠、出産、健やかな子どもの成長のための環境整備 <p>(イ) 家庭・地域における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な保育、子育て支援サービスの充実 や子育て支援人材の育成 ○子育て家庭の経済的負担の軽減 <p>(ウ) 職場における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○仕事と子育ての両立支援に向けた職場環境の整備促進 <p>② 働き方改革を推進し働きやすい生活の実現による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 長時間労働の是正や減収で多様な働き方の推進など働き方改革の推進</p> <p>(イ) 男性の家事・育児参加の促進</p>	<p>産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進</p> <p>① 産業・地域経済の活性化</p> <p>(ア) 富山県の強みを活かした成長産業の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 中小・小規模企業の振興 (ウ) 企業立地等の促進 (エ) 農林水産業の振興 (オ) 環境・エネルギー産業の育成 <p>② 若者や女性がいきいきと働ける魅力ある地域づくり</p> <p>(ア) 若者・女性の就業支援・県内定着の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 高等教育機関の魅力向上 (ウ) 地域の魅力創生 <p>③ 観光の振興</p> <p>(ア) 選ばれ続ける観光地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 富山のブランドカアップ <p>④ 移住・定住の環境づくり、応援人口の創出・拡大等</p> <p>(ア) 移住・定住の環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 応援人口の創出・拡大 (ウ) 多様な形態を通じた地域企業への人材の展開・選流につながる取組み支援 	<p>若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上</p> <p>① 若者や女性が輝いて働ける環境づくり</p> <p>(ア) 若者がチャレンジし活躍できる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 様々な分野で活躍できる女性人材育成 (ウ) 女性の再就職支援 <p>② 高齢者等が能力を發揮して活躍できる社会の実現</p> <p>(ア) 元気な高齢者が活躍するための支援</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 誰もがいきいきと働き活躍できる場の創出 <p>③ 外国人材活躍の促進と多文化共生の地域づくり</p> <p>(ア) 外国人材活躍の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 多文化共生の地域づくり <p>④ 多様な人材の確保・育成と労働生産性の向上</p> <p>(ア) 多様な人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) ものづくり分野や観光分野などでの人材育成 (ウ) 働き方改革を通じた労働生産性の向上 (エ) 産業の高度化・人材の育成の支援を通じた労働生産性の向上 	<p>活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり</p> <p>① 交通ネットワーク整備と活力あるまちづくり</p> <p>(ア) 陸・海・空の交通基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 快適で活力ある魅力的なまちづくり <p>② 人生 100 年代を見据えた人づくり</p> <p>(ア) 健康寿命の延伸</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 医療や福祉の充実 (ウ) 教育力の向上 (エ) 未来を拓く人材育成 (オ) リカレント教育の推進 (カ) 生涯にわたる学びの推進 (キ) 心の元気を醸成する文化の振興 <p>③ 持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくり</p> <p>(ア) 豊かで快適な環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 安全・安心の確保 <p>④ 豊かで魅力ある中山間地域の実現</p> <p>(ア) 地域コミュニティの活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> (イ) 地域経済の活性化 (ウ) 住民生活に必要な不可欠なサービスの確保

出典：富山県 第 2 期とやま未来創生戦略

(5) インパクトの特定

当社のインパクトを下記のように特定した。

- **取引先の生産性向上や省エネ化に貢献する産業用機械生産の増加**
- **環境負荷軽減に向けた取り組みの強化**
- **ワークライフバランスの充実による働きやすい職場環境の構築**

(6) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認

特定したインパクトと富山第一銀行のサステナビリティ方針と方向性が同じであることを確認する。今回特定したインパクトは「**取引先の生産性向上や省エネ化に貢献する産業用機械生産の増加**」「**環境負荷軽減に向けた取り組みの強化**」「**ワークライフバランスの充実による働きやすい職場環境の構築**」である。

富山第一銀行では、サステナビリティ方針のなかで、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」「4.健全な企業経営」の4点をサステナビリティを巡るマテリアリティ（重点課題）としている。

「**取引先の生産性向上や省エネ化に貢献する産業用機械生産の増加**」では「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」という観点で、「**環境負荷軽減に向けた取り組みの強化**」では「3.環境保全」の観点で、「**ワークライフバランスの充実による働きやすい職場環境の構築**」では、「4.健全な企業経営」の観点で方向性が一致する。

以上より、本ポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組むことで、環境問題や地域社会・経済を取り巻く課題に対して持続可能な社会の実現に貢献し得る資金の提供が可能となり、本ファイナンスを通じてSDGs達成に向けた取り組みの支援を目指す。

5. KPI の設定

● 取引先の生産性向上や省エネ化に貢献する産業用機械生産の増加

当社は、経営理念にてお客様からの相談に対して、目的や方向性を十分に理解し、「もうひとつの提案を加える」ことを常に考えるとする。人手不足による省力化機械の需要増加およびIoT、AI、ロボティクスを連携したスマート工場化が進み、生産ラインを最適化するニーズが増えている。当社としては増産体制を構築し、生産性向上や省エネ化に寄与する自動機や省力化設備の供給増加を通じてポジティブ・インパクトの拡大を目指す。

項目	内容
インパクトの種類	経済面におけるポジティブ・インパクトの拡大 環境面におけるポジティブ・インパクトの拡大
インパクトカテゴリー	「包括的で健全な経済」「資源効率・安全性」
関連 SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造現場における人手不足への対応や生産性向上に寄与する自動機・省力化設備の供給拡大 ・ 省エネ性能を高めた設備の開発・供給強化
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年3月期に売上高 400 百万円達成 (2024年3月期実績：312 百万円) ※以降の KPI は改めて設定する

● 環境負荷軽減に向けた取り組みの強化

取引先の生産効率の向上や省エネ化によって環境負荷を軽減するだけでなく、当社としても CO₂ の排出量の削減に向けた取り組みを進めている。太陽光発電設備による再生可能エネルギーを活用する等の取り組みを通じて環境面での「気候」におけるネガティブ・インパクト抑制を目指す。

項目	内容
インパクトの種類	環境面におけるネガティブ・インパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「気候」
関連 SDGs	
対応方針	・ 太陽光発電設備の導入等による再生可能エネルギーの活用
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2029年3月期までに CO₂排出量を 2026年3月期比で 20%削減 (2026年3月期より算定開始) ※以降の KPI は改めて設定する

● ワークライフバランスの充実による働きやすい職場環境の構築

当社は、従業員が安心して働いてもらえるような職場環境作りに積極的に取り組んでいる。従業員の健康に配慮し、多様な人材が働きやすい環境が整備されており、雇用に関わるポジティブ・インパクトの拡大やネガティブ・インパクトの抑制を目指す。

項目	内容
インパクトの種類	社会面におけるポジティブ・インパクトの拡大 社会面におけるネガティブ・インパクトの抑制
インパクトカテゴリー	「雇用」
関連 SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率化の推進や法定基準を上回る休業制度の整備 ・計画的な休暇取得を促進するための仕組み作り
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年3月期までに年間休日を123日に増加 (2024年3月期実績：120日) ・2029年3月期までに有給休暇取得率80%以上を達成 (2024年3月期実績：70%) <p>※いずれも以降のKPIは改めて設定する</p>

6. 管理体制とモニタリング

(1) インパクトの管理体制

当社は、代表取締役の上田様を中心にサステナビリティに関する方針・施策の決定や、重要課題（マテリアリティ）の検討、推進、進捗状況のレビューなどを行っている。

本件におけるインパクトについては、上田様が中心となり、管理・KPI 達成に向けた施策を実施する。

最高責任者	代表取締役 上田 一人
管理責任者	代表取締役 上田 一人

(2) モニタリング方法

本ポジティブ・インパクト・ファイナンスで設定した KPI の達成及び進捗状況については、富山第一銀行と当社とで定期的に面談の場を設け、共有する。本面談は少なくとも年 1 回実施するほか、日頃の情報交換や営業活動の場等を通じて実施する。

富山第一銀行からは、KPI 達成に必要な資金およびその他ノウハウの提供あるいは富山第一銀行の持つネットワークから外部資源とマッチングすることで、KPI 達成をサポートする。

モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより、KPI を変更する必要がある場合は、富山第一銀行と当社が協議の上再設定を検討する。

注意事項・免責事項

1. 本評価書は、富山第一銀行が株式会社 E アルから提供された情報や独自に収集した情報に基づく現時点での計画又は状況に対する評価で、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。
2. 富山第一銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について、一切責任を負いません。

● 本件に関するお問い合わせ先

株式会社富山第一銀行

法人事業部 コンサルティングチーム

〒930-8630

富山市西町5番1号（TOYAMA キラリ 7F）

TEL (076) 461-3871